

平成28年度 南三陸町総合戦略推進会議（第1回）

日時	平成28年6月30日（水）18:30～21:00
場所	南三陸町役場庁舎2階 大会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 委員紹介 4 協議等 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地方創生先行型交付金事業の検証について 2) 南三陸町総合戦略平成27年度事業の検証について 3) 南三陸町総合戦略平成28年度事業の進捗状況について 4) その他 5 その他（事務連絡等（次回日程、他）） <ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 6 閉会 <p><資料></p> <p>「第1回 南三陸町総合戦略推進会議 次第」</p> <p>「南三陸町総合戦略推進会議委員名簿」</p> <p>「南三陸町総合戦略パンフレット」</p> <p>「平成26年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金）効果検証シート」</p> <p>「南三陸町総合戦略施策一覧（平成27年度）」</p> <p>「南三陸町総合戦略平成28年度事業の進捗状況について」</p>
出席	<p>委員（敬称略）：</p> <p><出席：13名></p> <p>安藤仁美（住）、小山祥子（住）、齋藤めぐみ（住）、高橋未来（住）、渡辺公子（住）、伊藤孝浩（産）、佐藤克哉（産）、高橋直哉（産）</p> <p>最知明広（官）、佐藤太一（学）、相楽英敏（金）、及川貢（労）、重富裕昭（言）</p> <p><欠席：3名></p> <p>稲本都志彦（産）、及川美香（産）、小野寺邦夫（産）</p> <p>事務局：4名（檀浦室長、太齋係長、阿部主査、松本主事）</p> <p>傍聴：2名</p> <p>マスコミ：1名</p>

< 1. 開会 >

< 2. 挨拶 >

会長：委員の皆さんのおかげで、昨年度は南三陸総合戦略を策定することが出来た。今年度は実際に、戦略を実施する年となっていく。町としては、子育てクーポンなど、子育て施策を充実させていく。また、賑わいづくりにつながる道の駅整備推進協議会も動き出した。委員の皆さまには、一層のご協力をお願いしたい。

< 3. 委員紹介 >

- ・各委員より、一言ずつ自己紹介を頂いた。

< 4. 協議等 >

(1) 地方創生先行型交付金事業の検証について

- ・事務局より、資料に基づき、地方創生先行型交付金事業の概要と効果について説明。

会長：総合戦略策定前に、先行型事業が進んでいた。成果についてご意見をいただきたい。

委員：移住ツアーはどこが受け入れたのか。その運営は。

事務局：ツアー開催は1回の予定だったが、ひとが集まらず、農工房、観光協会、小野花庄園、丸平木材等を巡るツアーを計5回行い、合計11名が参加した。運営については南三陸町観光協会に委託した。

委員：実際に移住につながった例はあるか？

事務局：1名が移住したが、この事業がきっかけだったとは言い切れない。

委員：それぞれのコースに目的や意図はあったのか？幕の内弁当的で、参加者に響かなかったのではないか？

事務局：地域の資源を紹介するというコンセプトであったが、手探りで響くものを探っていた。ひとが集まらないこともあり、試行錯誤で進めざるを得なかった。

委員：今年度の予定はどうか？

事務局：移住総合支援業務でツアーも行う。平成27年度の先行事例をもとにツアーを計画する予

定である。

委員：最少催行人数があるのか。問い合わせがあったら、フレキシブルに対応できるのか。

事務局：業者との仕様書・契約の中で、最低何人という設定を行うので、それを達成するまでは契約した業者の責任において頑張っていただくことになる。

委員：各会の参加人数は？

事務局：1 回目 4 名、2 回目 2 名、3 回目 2 名、4 回目 1 名、5 回目 3 名の計 11 名である。

委員：参加者のアンケート結果はあるのか？

事務局：「選択肢がありすぎてわからない中で、地域の方を紹介して頂き、どんなことが出来るのか、誰とできるのかなど、をイメージすることが出来た。」などの感想があった。

委員：参加者から具体的な住宅確保の要望もあったのか？

事務局：すべてを把握してないが、住むところも大事だが、その前にしごとの要素が大きなウェイトを占めているのではないかと考えている。

委員：移住体験相談は、体験に対する相談件数か？これも窓口は南三陸町観光協会か？

事務局：内容は移住に対する相談である。委託先は南三陸町観光協会である。

委員：だとすれば、すごい良い成果ではないか。30 件はすごい。

委員：年代はどうか？

事務局：中心は 30～40 代。

会長：日本全国で一斉にやっているのだから、こちらを向かせるのが難しいのかもしれない。

委員：ここだけじゃなくて、全国各地にそういう方たちはアプローチして自分の可能性を探しているのではないか。

委員：自分もそうだが、まちづくりに携わりたいなど、やりがいを探している人が多いのではないか。

委員：起業したい人向けにはどうなのか？

事務局：両方あったと思うが、今回どちらかといえば、起業したい人向けの発信を行った。地域仕掛け人市に同行し、求人情報も出したが、起業したい方が多いように感じた。

委員：起業というからには、新しくやりたい方、すでにやっている方だと思うが、その方たちがこちらのブランドになりそうなものを探すツアーということか。丸平木材の社長の話を聞いて、こういうことに関わりたいと思う方が参加する感じなのか、それとももともとやりたいことを持っている方がくるというイメージか。

事務局：どちらかといえば前者である。迷っているけれど地方で活躍したい方が地域のとんがった方に触れて触発されるということだと思う。すでに起業してる方というよりはこれから起業したい方。

委員：企業支援補助金の 300 万円を活用するということか。

事務局：そういうことである。

委員：具体的な話を持って行った方が、漠然と来てくださいよりは、成約するのではないか。いろんな求人を集めて持って行ったほうが、仕掛け人市に来るような方は地方に行く気できているので、いろんな求人があったほうが良い。

委員：産業フェアに来てもらえばよいのではないか？

委員：呼べるか向こうで開催できるか。

会長：それに合わせてツアーを行うのも良いのではないか？

委員：一次産業はフィールド見せるのが一番ではないか。

委員：海に来た人は、廃棄するワカメの茎とかを見て、何かできないかと考える人が多い。そういうヒントになるようなことが見れるとよい。

事務局：どうやって当地域に目を向けてもらえるかだと感じた。仕掛け人市も初めて参加したが、各地とも工夫を凝らしたブースを出していた。

委員：そこに行ってただ座っていたのか？

委員：求人 4 件を掲げ、私も移住の先行事例として相談に乗った。ブースはシンプルであった。

事務局：のぼりとそろいのポロシャツ、南三陸のインタビューボードを用意した。

委員：ほかのブースでは何時からこういう話をしますとか、具体的なものもあったので、その辺が詰め切れてなかった。

委員：せっかく移住者を連れて行っても、それが伝わらないと意味がない。

会長：「移住者です」というビブスでも着せてはどうか？

委員：移住者は 2 名いたが、移住者だからこそ話せることはあった。

委員：次にやるときは、ここだけで勝手にやらないで、、

委員：FSC 材持っていくとか、カキでも木でも持っていくとか、、

委員：次はそういった細かいことを差し込める業者なのか。

会長：私も審査員だが、どんどん要望は言ってほしい。フットワーク軽くやってくれるところを採用したい。

委員：町で総力挙げてやっても罰は当たらない。

事務局：業者からプロポーザル（提案）はいただくが、あと全部よろしくという丸投げではない。すべてお任せするということはない。

会長：逆に皆さんからいろんな意見を言っていただいた方が良い。KPI の相談件数 30 が多いか少ないか、ここからどれだけ移住につながったから、最終的な成果となる。

委員：企業相談の結果を見たが、ここから次につながることはあったのか。

事務局：可能性調査に終始しており、プレイヤーがいないと行政ではどうしようもない。どう生かすかは課題である。

委員：プレイヤーは地元から探すのか、企業誘致するのか。

事務局：両方あると思う。

会長：道の駅も具体的な話は実際にはこれから。

委員：道の駅に企業誘致するのか。

事務局：道の駅を核として周辺の賑わいづくりを狙ってのこと。

委員：JR は BRT で行くのか。

会長：鉄路復旧は基本的にはない。

委員：公共交通の相互の連携は重要。高校進学を考えたとき、乗り換えがきわどい時間になっている。登米高校に行くには、横山で登米市民バスに乗る必要があるが、5 分しか乗り換え時間がない。佐沼高校もそのとおり。結局送り迎えになる。BRT であれば、ほぼ専用道にしてもらわないと、速達性・定時性が保たれない。

委員：気仙沼市では、新しい市民病院を含めて、交通網の体系を見直す部署をつくり、枝葉の接続を検討している。そう言ったことも必要では。

事務局：BRT を軸とし、町民バスなどのより良い接続を検討する業務を委託している。

会長：1 番目の人口ビジョン・総合戦略策定事業について、改めて評価はどうか。

会長：人口ビジョンと総合戦略については、策定自体が成果だが、意見はあるか？若干遅れはしたが、議論そのものが大切だから、その分会議の回数も増やしてちゃんとしたものをつくろうね、というスタンスでいったので、皆さんの意見はしっかり反映できたと思う。

各委員：同意

委員：あとは総合戦略を進めていくうえで、どうだったのかという今後の評価になると思う。

会長：次に 2 番目の地域交流拠点形成業務についてはどうか。

委員：ヒアリングシートの交通事業者相談件数とは、何か？

事務局：相談件数は言葉として適切ではないが、要はヒアリング件数である。

委員：交通事業者 4 者とはどこか。

事務局：JR 東日本、宮城交通、志津川観光タクシー、本吉タクシーの 4 者である。

委員：企業ヒアリングはどういった手法でえらんだのか？

委員：熊野古道はどういった基準で選んだのか。

事務局：知合いにあたってもらったり、有名どころにアタックしたりである。熊野古道の温浴施設については、成功事例でかつ、南三陸の立地条件に近いところを狙った。

委員：このヒアリング結果を見て、南三陸にもビジネスチャンスがありそうなところにアタックしていくかということか。

事務局：この活かし方は難しいと感じている。

委員：調べはしたが、これを次年度に向けて活かす提案もあったほうが良かったのでは？

事務局：提案も報告書として記載しているが、現実には活かし方が難しいと感じている。

委員：辛口評価ばかりだが、なぜこれを選んだのか。

事務局：現実には南三陸でやるには壁があるのだということと理解している。

委員：選択は委託先に任せたということか。

事務局：そうである。

委員：もう少しヒアリング結果があれば面白かった。

委員：これが示すのは、外からの誘致は難しいということではないか。創業を促すのが大事ということではないか。

委員：起業補助金等を使って。

委員：このデータはいろんな使い方ができると思うが、どう使うかが重要。どこで決めるのか。

事務局：ここで決めていただいても良いくらいに考えている。

会長：移住対策事業については、先ほど皆さんから結構ご意見をいただいたので、次の議題に移りたい。次は、皆さんにも一緒に考えていただいた総合戦略の 27 年度成果の検証についてである。事務局より説明を。

（2）南三陸町総合戦略平成 27 年度事業の検証について

・事務局より資料を用いて説明

（※官民連携事例については、資料を 0 から 1 に訂正。いりやどと共同開発した「みんなのまちづくりゲーム」の事例）

委員：町内新規雇用者数の 133 名はどんな内訳か。

事務局：内訳までは把握できていない。データ自体が取れない。

委員：町の無料職業紹介所をとおした人のみで、気仙沼のハローワークで決まった人は入っていないのか？

事務局：そうである。

委員：ハローワークには協力してもらえないのか。

事務局：その辺は探る必要がある。

会長：事業所に照会したほうが早いのではないか？

委員：基準がばらつくのでは意味がない。

事務局：当初の設定は、町が行う無料職業紹介所をとおした事例のみとしている。本来ならこういった数字があればよいが、取れないといった例も出てきている。一度見直しをさせていただきたいところもある。しかしながら、そのためだけに調査をするのかというのも効率的にどうかというのもある。なるべくなら既存のデータを活用した KPI が理想である。気仙沼のハローワークのデータについては作成時に難しいのではないかと議論をしたが、今年度再検討したい。

委員：戦略に関わらず、KPI として指標をモニタリングしていくことは、スタートしてしまえば町の評価手法として今後使えるのではないか。

事務局：お話は理解するが、業務が増え、今後職員が減っていけば、どこかでパンクする。

委員：だから取りやすいところで、確実に取れるところで取っていくと。

事務局：真の値とどれだけ離れているか、概ねあっているかということが重要ではないかと考えている。ハローワークと無料職業紹介所はダブっていることが多いので、その実績は、概ね代表できるのではないかと考えた。

委員：官民連携の件数については、例えば役場庁舎の FSC グループ認証の実現なども官民連携の形なのではないか。（H28 事例）

委員：戸倉小学校や入谷小学校での活動も挙げられるのでは？

事務局：皆さんから情報をいただければありがたい。現状は推進室をとおした相談のみなので、庁内の全課に対して官民連携の活動があれば報告しろということが必要かもしれない。

委員：河北新報とか三陸新報からひろうとか。

委員：町民から事例を募り、感謝状を贈るとか。

事務局：どういったことを官民連携の成果というかの定義の問題がある。

会長：線引きは難しい。役場の仕事の半分はそういった仕事だ。これって官民連携なのというのは確かにある。しかしながら、それを PR することは大事なことだ。

委員：もう少し積極的に広報されるとよい。報道されれば意識の喚起にもつながるので、頑張ってもらいたい。

委員：官民連携の話が出たが、創業件数も補助金の申請件数のことであろうが、創業者はいるのではないか。例えば銀行がこういったものを使ってみたら、というような官金連携のようなものも挙げれば、ゼロにはならないはずだ。

会長：実際に創業者いるのにゼロはないだろう。

事務局：町の起業補助金を受けた人のみをカウントしているので、データの取り方や KPI 設定を考える必要があると考えている。

委員：実際に創業した人がいる中で、カウントされなければエ〜っとなってしまうので、KPI の設定を考えたほうが良い。

事務局：とれるデータで公開できるデータである必要があるし、お金をかけることもどうかと思

うので、そのあたりが難しい。

委員：税務署は教えてくれないのか？

事務局：ビッグデータというか、件数としては教えてくれるかもしれないが、開業届も 100%ではないし、難しいかと思う。

会長：創業件数と官民連携実績がないのはどうかと思うが、他は概ね達成しているように見える。合計特殊出生率も高いがたくさん生まれたのか。

事務局：暦年で 80 名、年度ベースで 70 名くらいなので、安心はできない。そもそも 2.0 以上でないと減っていくことには変わりはない。

基本目標 1 について

委員：金額は単位は千円か？

事務局：千円であり、訂正していただきたい。なお、数値についてはなお計数確認中であることをお断りする。

委員：1 次産業の相談件数とは何か？

事務局：就農の相談件数である。

委員：町内・町外の内訳は？

事務局：町内である。

委員：雇用促進の奨励 8 名は前年実績より増えているが、手ごたえありとってよいのか？

事務局：目標は 5 年で 50 名なので、年換算 10 名が目標。

委員：これは以前からある事業だが、周知は十分か。

事務局：周知はされていると考えているが、新規でやられた方には引き続き周知が必要と考えている。

委員：訪日外国人旅行者受け入れ 200 人は基準値と一緒にだが、これはたまたまか。

事務局：200人は概数としてとらえていただきたい。

委員：台湾からのお客さんも入っているのか？

事務局：メインは台湾である。

会長：観光はこうしてみると順調とっていい。実際は3カ月程度の数字。

委員：平成27年度は実質数カ月しかなかったので、今年はずっと伸びると思う。今日からのインターンシップも30名受け入れる予定。

委員：数字は観光協会提供か？

事務局：当然協会にも聞いている。

基本目標 2 について

委員：定住促進住宅は満室か？増設の予定は？

事務局：満室である。下段に記載の10室の増設を計画している。

委員：空き家バンクはいつ動き出すのか？

事務局：今年度中を予定している。

委員：気仙沼は来週にも不動産協会と協定を結ぶ。空き家バンクが動き出すので、できるだけ早めにやったほうが良い。移住者が流れてしまう可能性がある。

事務局：空き家バンクの基本スタンスは、行政がすべての空家を調査する予定は今のところない。それよりは、登録促進の方に力をかけたい。

委員：仮設住宅を使うことはできないのか？

会長：集約化を図っていることもあり、なかなか難しい。

基本目標 3 について

会長：この部分は町も頑張っている。こども医療費も所得制限を撤廃することとした。

委員：修学資金 5 名は医者とそのほかでどちらが多いのか？

事務局：医学生はうち 1 名である。

委員：未就学児の目標値を大きく超えているが、これはどういうことか。

事務局：目標値は人口減少を見込んだ最低ラインである。出生率が上がったことが大きいと思う。

委員：戸倉保育所は新しくしたのでもっと利用して良い。土曜保育をやっておらず、土曜日は志津川まで預けに行かなければならないが、災害危険区域に入っているので大雨降ったら使えない。戸倉保育所を使えるようにするとか、志津川保育所を新しくするとか、対応を考えてほしい。

会長：志津川保育所は今、6 月議会で設計費を計上した。

委員：戸倉で 1～2 名でも受け入れてほしい。布団を持ってわざわざ行かなければならない。志津川でしかやってないから頼まないという人が多い。土曜保育を始めたら利用者はいると思う。

事務局：担当に伝える。

各基本目標に共通する取組み

委員：おらほのまちづくり補助金はどういった団体への補助か。

事務局：おらほの学園祭、花見山プロジェクト、芋煮会、カモメのイラストコンクールなど。

委員：ここでこれだけ上がるなら、もっと出てくるのではないか？

会長：私も審査員だが、趣旨から外れるものや、もともとやっている活動に対して補助申請があったりするので、それらは採択できない。

事務局：役人なりに分かりやすく伝えられるよう努力をしている。

委員：ホームページは町のホームページか。

事務局：そうです。

委員：非常に使いづらい。見たいところにすぐ行けない。

会長：リニューアルはいつだったか？

事務局：平成 24 年です。

会長：そろそろ見直しの時期か。

委員：南三陸なうは入っているのか？

事務局：なうを見た方が、町の HP も見てくれることを想定している。移住のページをつくって希望者に見てもらおうようにすることを考えている。

（3）南三陸町総合戦略平成 28 年度事業の進捗状況について

・事務局より資料を用いて説明

委員：子育てクーポンの額は大盤振舞いするはずではなかったのか。一つの魅力になるはず。入学時の 1 万円は少なくないか。

委員：川崎町は 30 万円だった。

委員：中学まで伸ばしたほうが良いと思う。

委員：子育てに優しい町というのであれば、次の段階では検討したほうが良い。

委員：こども医療費もどんどん対象年齢が伸びてきて助かった。これも同様に伸びていくと良い。

会長：走り出したことが大事だと思っている。小学入学時は確かに少ないと感じている。今後改良していく。

事務局：担当課に伝える。

委員：自然環境活用センターはどうなっているのか。担当はどこか。

事務局：松原公園跡地に予定しているが、地盤の問題、他の施設でも出てきているランニングコースの問題で再検討となっている。担当は産業振興課。

委員：外部の人もいれて議論した方が良いのではないか。ハードがすぐに難しいなら、官民連携

でソフトだけでも先に進めるとかした方が良い。

委員：みんなの期待感も大きいので、ブランドの話も含めて何とか頑張ってもらいたい。

会長：企画課も含めて議論していく。担当課にしっかりと伝える。

事務局：今年から動かすプラットフォームの中でも関係してくるので、皆さんにもご協力をお願いしたい。

（4）南三陸町総合戦略の改定について

- ・事務局より資料を用いて修正の方向性について説明
- ・次回会議で改定について議論していただきたい。

各委員：了

< 5. その他 >

- ・次回日程について
委員間の調整により 8 / 2 2 に開催とする。

< 6. 閉会 >

以上